

第13期 第5回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成29年2月1日(水) 15時00分 ～ 17時15分

2 会 場 鳥取市教育センター 2階 第1研修室

3 出席者 【委員】

本名俊正委員(会長)、野口淑文委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、長谷川誠一委員、松ノ谷博委員、大村匡由委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、牛尾柳一郎委員、田中弘之委員、森本早由里委員

【教育委員会(事務局:校区審議会)】

木村義彦次長、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任
- 4 報告
 - (1) 第3回校区審議会審議概要について
 - (2) 校区審議会に関連する活動報告について
 - (3) 鹿野地域小中一貫校の設置について
- 5 議事
 - (1) 徳尾・古海地内分譲宅地造成予定地の学校区について
 - (2) 江山中学校エリアの学校のあり方について
 - (3) 千代川以西エリアの学校のあり方について
 - (4) 第13期校区審議会中間まとめについて
- 6 その他
- 7 閉 会

5 議事の概要

事務局

定刻になりましたので、只今より、第5回鳥取市校区審議会を開催します。

本日は、〇〇委員が所用のため、30分程度遅れられるとご連絡をいただいております。

今回は、校区をまたぐ徳尾・古海宅地造成予定地の現地確認の後、神戸小学校において小規模校の授業の様子や学校教職員や「かんの教育を考える会」の会長、PTA 会長さんと、「児童の活動」や「学校運営」、「保護者の思い」について意見交換をしていただきました。意見交換の内容をまとめたものを本日の資料に添付しておりますので、ご確認いただければと思います。

本日は、4つの項目についてご審議いただきたいと思います。

議事1では、前回、現地確認していただいた、「徳尾・古海宅地造成予定地」について、校区のあり方についてご審議いただきたいと思います。

議事2の「江山中学校エリアの学校のあり方について」では、前回の視察を受けて、広くご意見をお伺いできたらと思います。

議事3の「千代川以西エリアの学校のあり方について」では、第12期校区審議会の中間答申を

受けて、今後の審議を深めていただく上で必要な事項などをお伺いできたらと思います。

議事4の「第13期校区審議会中間まとめについて」ですが、これまでの校区審議会では、任期の中間時期に「中間まとめ」をまとめていただき、全市的に審議会としての学校のあり方についての考え方や、学校個別の具体的な課題の整理、その課題への解決方法の例示などを行っていただき、それを広く公表させていただいております。各学校区において、学校のあり方を考えていただく契機となればと考えております。つきましては、13期の校区審議会の作成方針についても、ご審議いただければと思います。

慎重なご審議、よろしく申し上げます。

それでは、本名会長、ごあいさつに続いて、議事の進行をお願いします。

会長

皆さん、こんにちは。本日は、お集まりいただきありがとうございます。

大雪の影響で、1週間ほど延期して本日の開催となりました。委員の皆さんのご協力のおかげを持ちまして2月最初の日に開催できることになり、感謝いたします。

今回は、徳尾・古海の宅地造成予定地と神戸小学校等に出かけました。やはり、実際にご覧になっていただきますと、書面とはまた違った印象をお持ちだと思います。それから小学校では色々な具体的なお話をしていただきました。そのようなこともまとめながら、さらにより良い校区のあり方を考えていきたいと思っております。どうぞ、よろしく申し上げます。

それでは、最初に、議事録署名委員ですが、今回は吉澤委員と牛尾委員にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

続いて、報告事項に入ります。事務局より、一括して申し上げます。

事務局

[資料説明]

会長

ただ今の説明で、何かご質問などはございませんでしょうか。

鹿野地域小中一貫校についてですが、一人の校長先生の下、5・4制を導入しながら、施設分離型の義務教育学校としてスタートすることになるということです。これから1年少しの準備期間を経て進んでいくようです。

委員

学校の先生の配置というのはどのようになるのでしょうか。校長先生、副校長、それぞれの校舎に教頭という形なのかと思うのですが、他の先生方の配置というのはある程度決まっていますでしょうか。

事務局

現在、小中一貫校は、湖南学園が一体型ということで開校していますが、こちらは校長が1人で小学校と中学校を兼務しているということで、あとは副校長1人と教頭1人という管理職3人ということですが、現段階では施設が分離していますので、3人ではなく、それぞれの施設に校長又は副校長、その下にそれぞれ教頭を配置した方がよろしいのではないかなということで話を進めておりますが、まだ具体的に決定ということではございません。

そして、教職員定数は基本的に、小学校の教職員の定数と中学校の教職員の定数を合算したものが、義務教育学校には配置されるということです。養護教諭、事務職員もそれぞれの校舎で配置ができるということになっております。

その他の教職員については、中学校部分にあたる7～9年生部分には中学校の教職員が配置され、6年生の担任にあたる教職員は中学校の校舎に配置されることになると思います。そして、どの程度できるか分かりませんが、小学校と中学校の教職員がそれぞれの校舎を行き来されるということになると思います。ただ、距離が離れておりますので、湖南学園や福部未来学園に比べると児童生徒や教職員の行き来は限定的になるであろうと思います。

会長

義務教育学校の教職員の数が、小学校と中学校の定数の足し算で決まるということはわかりました。それでは、6年生の担任の先生が中学校に行くわけですので、その分だけ中学校の方に多くいらっしゃるということでもよろしいでしょうか。実際の6年生の教育内容は教科ごとに進めるということでしょうか。それとも担任が小学校と同じようにすることになるのでしょうか。

事務局

そのあたりも現在、話が進んでおりますが、全教科を中学生のように教科担任制を取り入れるのではなく、小学校が行っている学級担任制の良さを取り入れながら教職員の構成も含めてできる教科で中学校の教員が指導を行うということになるかと思っております。

会長

「表鷺科」ですが、これは具体的に、誰がどのようなことをすることになるのでしょうか。地域とのかかわりというのもありますので、地域の方がこの教科を行うのに支援されるような形なのかも含めて、中身をお伺いできますか。

事務局

教科の目標や具体的な学習の内容はこれから一年かけて教職員が中心となって作成していくことになります。鹿野の子どもたちの、表現力やコミュニケーション力を高めていきたいということで、週に1時間、年間35時間程度の時間数で教科を作ることになっています。主に地域の素材などを生かした体験的な活動を入れながら、資質・能力を育てていくというような教科を作っていきたいということで検討が進められておられます。この委員会には、鳥の劇場の団員の方もメンバーに入っておられますし、表現力という部分では鳥の劇場にも力を貸していただきながら一緒に育てていくということも進められております。

会長

なぜこういった科目にこのような漢字が当てられたのかということを考えていたのですが、この「表鷺科」の「鷺」は、「鷺峯山」の「鷺」ですか。「表」は、「表現力を持たせる」ということでこの漢字になっているのでしょうか。

事務局

そのように聞いております。既に鹿野中学校では、中3の時に「表鷺の立志式」ということで、自分の将来や目標を語って中学校を巣立っていくということを行っているようです。

委員

今は、施設分離型でスタートするわけですが、施設が老朽化して建て替えなどの対応が必要になった時には、その後の方針を教育委員会独自で決定されるのか、それとも校区審議会に諮られるのか、そのあたりはどうなるのでしょうか。

事務局

中学校の用地ですが、史跡指定になっており、そこでの建て替えはできません。

いつの時期になるのかはわかりませんが、将来、施設分離型ではなく、施設一体型の義務教育学校になるということが想定されると思います。その時には、地域との協議も十分に重ねて、向かっていく必要があると思っております。

副会長

「鹿野地域の教育を考える会」というのは、鹿野の地域の教育者や保護者で作られた団体ですか。

事務局

鹿野地域の自治会、まちづくり協議会や幼稚園・小学校・中学校の教職員、保護者の方で平成 26 年 5 月に組織されました。

副会長

5・4 制というのはどういう段階で出てきて、今後どのように決定していくのでしょうか。

事務局

5・4 制につきましては、平成 28 年 6 月に「鹿野地域小中一貫校推進委員会」が組織されるまでは、地域の中では議論はされておられません。教育委員会が委員委嘱した「鹿野地域小中一貫校推進委員会」の中で、小中一貫校づくりのための議論を具体的に行っていただくことになりました。この中には、学校の教職員も入っており、先進的な小中一貫校に視察に行かれております。その中で、鹿野と同じような施設分離型一貫校の 5・4 制の取組を学んでこられたということもあり、委員さんの中で 6・3 制の一貫校の形と 5・4 制のどちらが鹿野の目指す子ども像に到達しやすいだろうかという議論がされて、この推進委員会の中で決定されていきました。

副会長

「鹿野地域小中一貫校推進委員会」の構成は、どうなっていますか。

事務局

委員は 20 名おられまして、「鹿野地域の教育を考える会」の代表又は推薦された方が 6 名、こちらは主に鹿野の住民の方になります。中には、先ほど申しました鳥の劇場の団員さんも 1 名入っておられますし、鹿野地域出身ではないのですが、この学校づくりで地域振興にも生かすようにとのことがございましたので、関東から I ターンで来られた幼稚園の保護者の方などにも入っていただいております。幼小中保護者代表 6 名は、全て鹿野の幼稚園、小学校、中学校の正副会長です。幼稚園・学校関係の 8 名は、園長、校長、教頭、教務主任などが入っています。

副会長

「鹿野地域小中一貫校推進委員会」の中で 5・4 制などが出てきたということですが、この段階では校区審議会としては関与していない形なのでしょうか。

事務局

平成 27 年 11 月に校区審議会から答申をいただきましたが、その主旨につきましては「新たに小中一貫校」ということでしたが、その答申の中身には、「具体的な学校の形については、今後教育委員会と地域でしっかりと議論をして地域にあった学校をつくっていくように」というような内容をいただいておりますので、それを受けて地域と教育委員会で検討をしておりますので、校区審議会にはその後の報告をさせていただいているという状況です。

副会長

鹿野の保護者の方などが、全国から 5・4 制という先進的な取組を探されて、視察に行かれたということですか。

事務局

教職員が視察に行きまして、それを推進委員会の委員さんに報告するという形を取られました。また、昨年の夏に 5・4 制の先進地の学校から講師として校長をお招きし研修会も開催されました。

会長

その先進校というのは、どちらになりますか。

事務局

京都市立東山泉小中学校でございます。

副会長

「鹿野地域小中一貫校推進委員会」で、5・4 制がいいだろうということで決定されたことについて、教育委員会がそれを認めるかどうかという判断をされるわけですか。

事務局

最終的には、そういった形になります。推進委員会や部会には、私ども校区審議室の職員と学校教育課の指導主事が毎回参加しており、常に情報交換を行いながら、時に協議が必要な点には持ち帰って教育委員会に説明をするというようなこともしています。急に「鹿野地域小中一貫校推進委員会」から方針が出てきて、検討したという形ではなく、連携を取りながら行っております。

会長

よろしいでしょうか。新しいスタイルになりますので、これから様々な準備が進むだろうと思います。方針は決まりましたので、その中で子どもたちにとってより良い教育が実施される体制をしっかりとつくってやっていただきたいと思います。

報告事項は以上で終わりたいと思います。

それでは、議事に入ります。議事 1「徳尾・古海地内分譲宅地造成予定地の学校区について」、事務局より資料の説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

会長

事務局から地図を用いて説明していただきました。ここの造成地につきましては、スケジュールを確認しましたところ、3月には業者が市の開発許可を受けて分譲を開始するというこのようです。本日から2月に入りましたので、今回の審議会で、この地域における学校のあり方についてこれからご検討いただき意見をまとめ、教育委員会に届けたいと考えています。教育委員会で最終的に決定されますが、私たちの意見を考慮しながら判断されることになるかと思えます。時間的にも余裕がない状況ですので、前回の校区審議会で現地確認を行いました。その時の様子と本日の資料を照らしていただきながら、審議をお願いしたいと思います。

検討の中身として、委員さんの印象でもよろしいのですが、一つは子どもの通学における安全や距離といった通学のしやすさ、もう一つは地域とのつながり、さらに子ども同士のつながりなどを考慮していただきながら、お一人ずつご意見をいただき、結果的にはどちらの校区にした方が良いかということのご意見をいただき、全体として最終的に審議会の意見としてまとめたいと思います。

〇〇委員さんから、順にお願いします。

委員

該当地域が「コ」の字型になっている理由は、田んぼの所有者がおそらく徳尾の方の所有のためこのような形になっていると思います。徳尾の土地なので世紀小学校になるかもしれませんが、川を通る道が通れないということになるようですし、そうすると迂回しなければならず、遠くなってしまいます。それから、近くの高草団地町内会は大正地区の町内会なので、そのような面からの弊害も出てくると思うので、一緒に大正に入れた方が自治会、学校、距離的な面でもいいのではないかと思います。

委員

事務局に確かめたいのですが、私はこのあたりの交通や通学路の安全性の情報を持ちえておりませんので、ここが危険であるとか人通りが少ないなどの情報を教えて下さい。

事務局

まず、世紀小学校までの通学路についてですが、国道29号線の付近を通ることや横断することは危険だということで、野坂川を渡った後、市営住宅のある方に向かう道を通っていきます。そうしますと、陸橋の下の地下道を通って農道に抜けて学校に向かいます。このように少し遠回りしながら通学するという事になっています。危険性につきましては、吉岡線に出てから歩道はありますが、車が多い道路を横断することになります。現状では、高草団地あたりから高草中に通っている生徒や、野坂川を渡って世紀小学校に通っている徳尾の児童が、この道路を横断しております。

大正小学校までの通学路ですが、学校の方から「ヤマダ電機のある交差点が非常に危ないので、陸橋をつけてほしい」という要望が以前から県や市に出されております。現状では、大正小学校の見回り隊の方ですとか、教職員が毎朝この横断歩道について児童の安全を確認しながら通学させています。

委員

わかりました。私は通勤途中にヤマダ電機のある交差点を左折していきますが、先日の大雪の時に歩道の雪がかいていなくて、登校班の児童が車道を通って通学しており、すれ違いのお互いの車が止まっていないといけなような状態でした。方や、世紀小学校については間近に感じたことがないものでお尋ねしました。

それから、先ほど〇〇委員がおっしゃられました高草団地町内会というのは、大正小学校に通っているわけですね。

今、2つの情報を提供していただいたかぎり、学校長としては、より安全だということであれば、近くの大正小学校が良いのではないかと思います。確かに、大雪が降った時のような冬場、申し上げた箇所について危険であると思うのですが、たくさん大人の目がありました。交通整理の方もおられるし、当然保護者もそのような日は心配ですから、たくさん保護者がついておられるなあと思いました。そういう意味で、2つの情報を鑑みると大正小学校に通学するのが良いのではないかと考えておる次第です。

委員

私は高草中に12年勤めておりましたので、この辺りの様子はよく分かっております。該当地域は、古海の中でも新しく来られた方が1戸建てを建てておられるような場所です。通学面でいえば、吉岡線も交通量がかなりありますし、右折して国道29号線の地下をくぐる道があるのですが、ここも昔不審者が出たこともありました。そういった意味では、目の届かないところでもあるわけです。また、高草団地町内会の子どもたちは大正に通う、この地域の子どもたちは世紀に通うということになりますと、今の西中と北中の生徒が通学途中に交差してしまうという歪な形と同じようなことになってしまいます。

町内会、距離、安全性から考えても、すべて大正小学校区とした方がいいと思います。

委員

私も大正小学校に通われた方がよろしいかと思います。周りに大正小学校区の家があり、ここは徳尾でも飛び地です。そういった状況でありながら、世紀小学校に通うというのは、周りとの兼ね合いもありますので、近いですし、道も安全ですし、大正小学校が良いと考えております。

委員

私も皆さんと同意見で、大正小学校に通わせるのがいいのではないかと思います。通学路については、どちらの小学校に通うにしても問題点はあるのですが、その中でも少しでも距離が短いということや、たくさん地域や保護者の目があるというのはありがたいことだと思います。そう考えると大正小学校に通わせるのがいいのではないかと思います。

委員

私も大正小学校の方が良いのではないかと思います。開発予定地は現在の規則では2つの校区に分かれることになるわけです。その点で、同じ時期に分譲される団地ですし、今既にある高草団地町内会にも加入して馴染めそうな場所でもあるので、子供会の運営や通学路の交通整理のことを考えると、大正小学校一つにした方がいいのではないかと思います。

委員

私も大正小学校でいいと思いますが、逆にこの地域を世紀小学校に通学させないといけなとい

う理由が何かあるのでしょうか。不都合なことがあればお伺いしたいと思います。

事務局

通学区域については、教育委員会規則である「鳥取市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則」の中で学校名と通学区域（町名）が表によって定められています。現行では、世紀小学校の通学区域に「徳尾」がありますが、大正小学校にはありません。

委員

では、規則を改正すればよいということですか。

事務局

そういうことになります。

委員

現地確認をしまして、私も大正小学校の方が良いと思いました。安全面を考えると、ベストではないですが、どちらかという大正小学校の方がベターだと思います。それから、一つの町内会の中で小学校が分かれてしまうというのは非常に不都合が生じてくるのではないかと思いますし、地域とのつながりもそうですが、子ども同士が育っていく環境というものも同じ町内、同じ学校の中でというのがいいのではないかと思います。

委員

私も大正小学校でいいと思います。通学路のことも含め、隣近所の方と違う学校に行くことになると、若い世代の方が家を建てられた時に隣近所の子もたち同士と一緒に遊ばないなどといったことも出てくるかもしれませんし、同じように育てていくといった意味では大正小学校の方がよいと考えます。

委員

私も大正小学校でいいかと思いますが、現在、世紀小学校区になっている「徳尾」に住んでいる方が大正小学校区に移りたいとかといった声を上げられた時はどのような対応になるのでしょうか。

事務局

そのあたりも校区審議会でご議論いただくことになると思います。

鳥取市が近隣町村と合併した頃のことですが、岩倉小学校区と宮ノ下小学校区について校区審議会でご議論をさせていただいて方向性を出したということがございました。宮ノ下小学校区は旧鳥取市との境界に接しており、岩倉小学校がその境界近くにあるということで、保護者の方から「すぐ隣に岩倉小学校があるのに、遠くの宮ノ下小学校まで長い距離を歩いていかなければならないし、通学路も危険な箇所がたくさんあるので校区を考えてほしい」という要望を教育委員会に出されました。これを受け、校区審議会でも、該当する町の皆さんに議論をさせていただこうということで、「あおば地区」という4つの町内会で形成されているところがあるのですが、それぞれの町内会の住民で協議をされました。その後、それぞれの町内会の意向を要望として校区審議会に出され、校区を変更したということがございました。

委員

将来的にこのあたりの方が、大正小学校区に変えてほしいという要望があった時には、その都度我々が議論して検討するということになるわけですね。

事務局

はい、そのようになると思います。該当の地域の保護者の方などが声を上げられるという場合もございますし、12期には、他の校区を自分の校区に移してほしいというような要望もございました。その都度報告をして、校区審議会でご議論をさせていただいております。

副会長

皆様のご意見を伺っていて、結論は大正小学校だと思えます。先ほど言われた規則についてですが、徳尾が世紀小学校区だけになっているものを、大正小学校区も加えるということですね。それは、いつ誰がどのように規則を変えるのでしょうか。

事務局

それは鳥取市教育委員会が決めることになっておりますので、本日いただいた意見をまとめさせていただき、最短ですと2月20日に定例教育委員会という会議がございますので、そちらに報告し、ご意見どおりであれば規則を改正する手続きを行っていきたいと考えております。

事務局

現在の規則では、「徳尾」は「世紀小学校」ということになっています。これを、「徳尾の一部」ということに表現を変えることとなります。それから、「大正小学校」に同じく「徳尾の一部」を追加して教育委員会に諮ることとなります。

会長

皆様のご意見を伺ったところ、大正小学校の方が安全ではないか、通学距離も短い、町内会との関係ですが高草団地町内会で一緒にされると思えますので、子どもを育てる全体の体制が町内会と一緒にの方が良い、子ども同士の遊びや育ちの面でもやはり大正小学校にまとまった方がいいといったようなご意見がありました。最初をお願いしておりました3つの点について、皆さんからご意見を伺いましたので、最終的にこの委員会としては大正小学校がふさわしいということで、教育委員会に意見を届けたいと思えます。よろしいでしょうか。

教育委員会に提出する書面の文面については、事務局で検討していただきますが、最終的には事務局と会長にご一任いただけませんかでしょうか。

副会長

すみません、もう1点確認ですが、この地域は高草団地町内会に入りそうなのですか。

事務局

これについては、実際に住まれる方がどう判断をされるかということになるかと思えます。可能性としては、この地域で独立した町内会を作られるのか、あるいは隣接して既にある高草団地町内会に入られるのかということになるかと思われま。

高草団地町内会長にも、この開発予定地の状況や、教育委員会における校区決定についての今後

のスケジュールについてご説明させていただきました。その際に、町内会長さんにも伺いましたが、町内会は新たに住まれる方の意向も受けながら、検討されるとのことでした。

委員

参考に申し上げますと、高草団地町内会も自治連に入っただいております。

会長

わかりました。町内会がどうなるかということは少し不透明なところもありますが、開発予定図面を見ますと、西方向は行き止まりのようですので、町内会を仮に別に立ち上げられたとしても、一緒に色々な活動をされたり、声をかけ合ったりすることはあると思いますので、その辺を含めますと大正小学校がいちばんふさわしいだろうという結論になると思います。

委員

先ほど、陸橋を要望されておられるという話がありました。私の住んでいる場所は、米里小校区ですが、雲山団地から毎日 150 人程度の子どもたちが通っているので危険だということで、要望から 4 年ほどかかったのですが、雲山団地から西大路に向かう道路に陸橋をつけていただきました。融雪装置も付いているので、雪も自然に融けます。やはり交通安全の面でも大事だと思いますので、地域なり学校なりから要望していただければいいと思います。

会長

やはり安全な通学が一番ですので、地域からそういった声を上げていくのがいいと思います。そのような情報がありましたら、また提供していただきたいと思います。

それでは、教育委員会で規則を変えていくことになるだろうと思われませんが、それはまた事務局の方で検討してください。よろしくお願いします。

ここで、10 分休憩をいたします。

(休憩)

会長

それでは、再開いたします。

議事 2 の「江山中学校エリアの学校のあり方について」をご審議いただきます。12月に神戸小中学校で授業参観、意見交換、そして美和小学校と江山中学校で校舎の見学をしていただきました。神戸小中学校で行った質疑応答の概要を事務局で参考資料としてまとめていただいております。また、江山校区の学校のあり方を考える会の活動について事務局よりご報告いただきたいと思っております。

事務局

(資料説明)

会長

ただ今の説明に、ご質問やご意見はございませんか。

前回も皆さまから様々な、ご議論をいただいたのですが、その後も色々とお考えいただいているところだと思いますが、3つの学校を見られて今後どのようにすべきか、あるいは全般的なことで結構ですので、お一人ずつご意見を伺いたいと思っております。

委員

私の方では、それぞれの自治会長さんがどのように考えていらっしゃるのかお伺いいたしました。美和小校区の自治会長、公民館長さんも神戸小が来られるのを待っているとのことでした。「なぜ、最初から小中一貫校にされないのですか。」と伺ったところ、「時間がかかるので、まずは小学校を統合し、次に小中一貫校を考えていこうとしている。」ということでした。神戸小が来られるのであればいつでも受け入れる準備はできているとのことでした。

委員

鹿野地域小中一貫校推進委員会の住民説明会の時に、地域住民として出ました。教員ではなく、住民に対して情報提供する難しさがあるのだろうと思います。「なぜ、一貫校や義務教育学校にしたら良さがあるのか」や「どんなメリット、デメリットがあって、だからこうして進もうとしているのだ」ということを周知し、理解していただくことには難しさがあります。教員はどうしても専門用語などを使用してしまいがちで、地域の方にそのような言い方でわかるのかなと思って聞いておりました。

今回の神戸小、江山中、美和小ですが、それぞれ地域の違いがあり、切実感に違いがある中で、そこをいかにして「でも必要なのだ。」ということ周知、理解していただくことが必要なのかということをも悩みます。

鹿野地域には、新しい学校の校名募集のチラシが来ています。どういう名前がいいのかということ家族で話しても、どうやって決めていけばいいのかということで、近所の方に話を振ってみると鹿野を使えばいいのではないかという方もいらっしゃいます。つまり、温度差がある、色々と立場がある中で、どうやって周知、理解を図っていくのがいいかということなのです。

委員

本日の資料の 30 ページをご覧くださいなのですが、中学校の生徒数のグラフがございまして、これは平成 24 年のデータです。佐治と用瀬がありますが、今は統合という道を選ばれて千代南になっています。これは、地域の要望もあり、うまくいきました。それから、湖南や福部、鹿野は小中一貫校ということになりました。江山は 81 名、それから青谷も将来 80 名程度になります。私は中学校の校長の代表として出席しておりますが、中学校という視点で見ると、例えば部活の面では、入りたくても入れない子どもたちがいたり、出場しても負けてしまう実態があったりします。そういう意味で、私は中学校というのは活力がないといけないと思います。生徒数が 100 名に満たないと、そういう活力が生み出せないのです。そういう意味では一貫校という考え方ではなく、生徒数を確保するために、隣接する校区との再編も検討すべきだと思います。

逆に、小学校では、地域に根差した活動というのをしないとけないと思います。神戸小学校を見られてわかると思いますが、非常に発信力があり、活動力もあり、少ない中で生き生きとしていました。ですから、小学校というのはそういった特色もあるのではないかと思います。職員が少ないのに、出張も多く大変だと思うのですが、そこに職員の手当てをして、担任が学校にいられるようにするなどの工夫も加えながらやっていかれたらと思います。

ですので、このケースの場合は、神戸小と美和小の統合ぐらいにしておいて、本当に一貫校にまでする必要はあるのかなというふうに思います。一貫校とは言っても中学校部分はそのまま残るわけですから、それで、大会や研究会に出るとか、教科会を持つとかいった場合、全て兼務の教員になってしまいます。江山中と他の A 校を受け持つという形です。週に 1 学年 1 回しかない音楽などを回すとなると、たった 1 週間に 3 時間です。そういうことを、ここのメンバーで考えるべきだと思います。

委員

3 校を視察させていただいてよかったと思いました。神戸小学校では、小規模ならではのきめ細かい授業などを拝見させていただきましたし、掲示物の字が丁寧に書かれていたことや立派な内容

の作文などを見て、小規模のメリットはこういうところにあるのだなと感じました。そういった中で、神戸の地域の方が、他の小学校と一緒にの方がよいという意見を出されたことは大事にしなければいけないと思いました。

最後に訪問した江山中学校では、部活動を少ない人数でやっておられました。私はそれを見たときに、神戸小と美和小の合併をまず行って、そこから先にどうすべきか考えるべきではないかと思いました。地域の皆さんも中学校の部活や授業等を見られたら、小中一貫としても中学校部分の数は変わりませんので、不都合な部分、少人数で困る部分がどうしても出てくるのではないかと思います。

委員

保護者の立場からすると、教育の観点からメリット、デメリットはあるのですが、やはり小学校は、合併となると通学距離の問題が出てきます。私のイメージでは、江山校区はバス路線が一つですし、あまり問題がないと思っていたのですが、江山中学校の生徒の中には、バスの時間に合わせて途中で帰らないといけないとか、土曜日にいい時間のバスがないとか、路線はあるのですが、便が少なすぎるものの通学の不便さがあると思います。その辺り、交通の便をもう少し考えていただくとか、スクールバスを出すということも視野に入れていくことも必要だと思います。

そして、鳥取市全体として考えると、中学校の生徒数が増えていく学校と減っていく学校で二局化が進んでいます。減っていく学校というのはどうしてもエリアが広くなりがちになっていくのですが、そうなった場合に将来、鳥取市として中学校の位置が今のままでいいのかということも含めて思い切った議論も必要かと思っています。将来的なことを考えて、例えば、統合する場合には、中学校を新しくどの位置に配置すべきという議論もしないと、今後解決しない問題も出てくるのではないかと思います。

委員

神戸小では、勉強に遅れそうになっても重点的に指導できるきめ細かい教育環境にあり、取りこぼしのない教育がなされているなと感じました。ただ、江山中で部活を見て、チームワークという視点を考えると、チーム作りのできるぎりぎりの人数かそれ以下で、人数が足りない部活もあり、そのあたりはどうなのかと思いました。千代南中は佐治中と用瀬中が合併したのですが、これから発展するだけの人数が確保されないのに合併したという気持ちが私の中にはあります。なぜもっとエリアを広くして合併しなかったのかと思っています。やはり、中学校の適正規模を考えていくべきで、神戸地区の意向を組みながら、小学校は合併するにしても、中学校はもう少し議論をして考えていきたいと思いました。

委員

神戸小は小さいですが、行き届いた充実した教育がなされていると感じました。いい具合に育てていただいております、ある意味うらやましく思ったところです。中学校は、授業が終わって部活動の時間だったということもあると思いますが、少し活力がなかったように感じました。

委員

神戸小で授業を見させていただいた時に、小さいですが特色ある学校づくりをされていると感じました。現状を見ますと、まずは神戸小と美和小の統合をまず進めていくのがいちばんいいのではないかと思います。江山中との小中一貫校の問題については、もう少し地域の中で議論を深めていただくことが必要なのではないかと感じました。

委員

3校見させていただいて、色々と特色もありそれぞれが素晴らしいところがあるなと感じました。神戸小学校は本当に昭和の学校のように、懐かしいなと感じました。美和小学校はすごく校舎もき

れいで廊下も広く空き教室もあって、ここに神戸小学校の子どもたちが1人から2人増えても、何の違和感もなくすんなりと受け入れるような雰囲気もありました。まずは小学校同士の統合がいいのかなと率直に思いました。ただ、神戸小学校にしてみれば、神戸から学校がなくなるということは、地域にとってとても大きいことだと思います。学校は人を育て、文化が育つ場でもあります。地域が子どもたちの将来を見据えて出された答えなので、やはりそれを受けてこれからのことを考えると、まずは統合ではないかと思いました。江山中学校に関しては、先ほどから少人数という言葉が出ていましたが、私自身が湖南学園におりまして、子どもたちが少人数で活動しているのをいつも見ているので、違和感なく見ておりました。人数が少なくても活躍ができる場があるなどが挙げられますが、チーム力などなかなか難しい面もありますので、小中一貫に関してはもう少し議論して意見を出し合いながら方向を決めていった方がいいのではないかと思います。

委員

神戸小で取り組まれている様々な文化を現地で伺いました。例えば、砂見太鼓や桃づくりがあるということでした。視察をした際に、桃づくりにかかわった児童たちによる成果発表のような場面に立ち会うことができ、大変すばらしい取組であると感じました。もし、神戸小学校がなくなってしまったときに、砂見太鼓や桃づくりが途絶えてしまうのだろうかということを考えますと、美和小の子どもたちも同じ学区になるので、みんなで砂見太鼓や桃づくりにかかわればいいわけで、今よりも文化の継承者がむしろ増えるのではないかと思います。学校という箱モノがなくなった喪失感というものは確かにあると思うのですが、文化の継承という側面から見たときには、むしろメリットになるのではないかと考えました。

先生方のことを考えますと、例えば力量の高い先生がお一人神戸小から異動で転出されて違う方が入って来られたときに、組織的に受ける影響は非常に大きいと思います。人が少ないと、その人が抜けたときのダメージは大きくなります。神戸小の場合は、個人に依存しているところが非常に高いと思います。神戸小の先生方は非常に力量が高いと思うのですが、異動や教員組織ということ考えたときに、やはりある程度の先生方の人数とか組織力は必要だと思うので、そういう意味で学校を大きくすることで先生方の数を維持していくという考え方も必要だと感じました。実際にお忙しいようですし、サポートをされている非常勤講師もついているようですが、本務者の数がある程度必要だと思います。

したがって、結論を申し上げますと、美和小と神戸小を一つにして、先生方の数を確保した上で、また新たな学校文化、地域の文化を継承したり新たにつくったりした方がいいのではないかと思います。

小中一貫校についてですが、小学校の統合と同時並行で一貫化を進めるというのは色々と難しいのではないかと思います。中学校については鳥取市の中学校教育全体の中で議論すべきであり、神戸小の問題と連動させるのは本当に有意義な議論になるのかどうなのかと思った次第です。

委員

客観的に数値的な面や効率性で見れば、小学校が一緒になった方が何かといいとは思いますが、私自身が、小学校時代に8回転校していますので、神戸小学校のような非常に少ない学校もありましたし、何キロも歩いて大きな小学校に通ったこともあります。このような色々な経験はしているのですが、保護者や教育者の方の意見は出ますが、例えば小さい学校から統合を経験して一緒になった生徒の話というものが聞けていないと思います。実際に、子どもがどう感じたかということだと思います。そういった子どもたちの意見も参考にしていきたいという気持ちを持っています。

会長

ありがとうございました。私も視察させていただいて、色々なことがよくわかったと思っています。委員さんもおっしゃっておられましたが、児童の字がとてもきれいで、本当に教育が行き届いているなということを実感しました。そういった部分があったいなというのもあるのですが、このままずっといつまでもやっていたらいいのかということもあります。どこかで合併を考えざるをえ

ないだろうと考えています。両方の地区に障害がなければ、小学校だけを先にして、中学校はもう少し時間をかけてあらゆる面での検討を進めた方が、小中一貫を一気に進めるよりは、鳥取市の教育としては、将来的にあまり大きな課題は残らないのではないかと思います。

皆さんのご意見を伺っても、それぞれの校区の地域もそれほど大きな抵抗はないようですし、美和小学校の校舎も素晴らしいです。今の校長先生も午前中5時間という新たな取組をされておられ、ゆとりを持った教育を進めておられます。また、先生にとってもよい取組となっています。

皆さんのご意見をまとめますと、小学校の検討をまず先に進めて、中学校についてはあらゆる検討をもっと大きな視点で行った方がいいのかなと思います。もちろん、湖南学園のように小さくても魅力のある学校は様々な形でつくっていかねばなりませんし、福部も鹿野も含めて少ない人数で魅力を出す、やはりこれが良かったと言えるような教育内容にしていくべきだと思います。鳥取市全体を考えてみますと、色々な小中学校の形が並列して出てきますので、なかなかどれがいいのかということ難しいですが、もちろんそれぞれの地区によってということもありますが、最後は教育の内容でどういう子どもが育てられるかということで、魅力が決まるのではないかと思います。そのあたりは、カリキュラムだけではなく、地域とのかかわりを含めて鳥取だけでなく全国に誇れるような色々な仕掛けを考えていただけたらと思っています。この課題は、もう少し現地の状況を伺いながら、何回もご検討していただくことになると思います。

それでは、議事3「千代川以西エリアの学校のあり方について」に入ります。これは、我々の前の第12期校区審議会で中間答申が出され、千代川をまたぐ橋を渡って通学することの安全の問題、地域住民の校区に対する様々な考え方、同一町内で複数の学校区が存在するなど様々な課題が複雑に絡んでいる地域です。こうした校区の状況を、事務局よりもう少し詳しくご説明いただきたいと思っています。

事務局

(資料説明)

会長

ただ今の説明で、何かご質問はございますか。

ここは何とか解決していかないといけないときが来ますので、もう少し踏み込んだ検討をしたいと思いますが、ご意見があればお伺いしたいと思います。〇〇委員さんの方で、地区の現状などをお聞かせいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

中間答申が出た直後に、自治会を通じて対象の町内会長さんなどに集まっていただき、説明会をしていただきました。その後、なかなか議論が進んでおらず、今に至っているのですが、先日、千代水地区の自治連の会長と話をしておりまして何とか2月～3月中に準備会を持つ場を設けようという話をさせていただきましたので、まずはそれを受けてからまた地域からの意見が出てくるのではないかと考えております。なかなか話が進まなかったというのは、千代水地区がどうしても、城北と世紀と賀露の3つの小学校に分かれているので、城北と世紀についてどう考えようかということについて、対象の地域以外の方の関心が薄く、千代水地区として話し合いをする場がなかなか持てなかったというのが現状です。

城北小の校長先生とも話をしているのですが、地域創造学校として運営協議会という会議を開いているのですが、その会議の回数を増やしていただくように要望しております、その中で校区について議論をしていただいて学校としての意見をまとめていただければいいのではないかと考えています。

現状としては、千代水地区としての考え方と城北小学校の中での考え方と2本立てでしばらく議論をする場を設けて、校区のあり方をどうするか考えていけたらと思っています。

委員

この地域は、以前から安全第一優先ということで議論されていて中間答申が出ているわけです。

台風の時には、校長先生まで橋の上に立たれて交通整理をされています。そういうことで、少しでも対応が遅れたらクレームが出てきますし、それに市教委が対応されることもあるわけです。安全のことを言われる方がるのであれば、それを取り除く必要があります。ここの校区に限っては安全第一で、八千代橋を渡らせないということしかないと思います。地域住民の方に聞くと、土地を買った時は城北校区であったということで、話が白紙に戻ってしまいます。せっかく考える組織を立ち上げてもらえばやるほど元に戻ってしまいます。この地域は、子どものために安全第一で離すべきだという考え方で進むしかないと思います。線路の下の通れるところを通れば、高草中学校まで本当は3分で通れるところを4キロも歩いて行くということを考えると、校区で縛りがあるのであれば校区外でも通学できるようにするなど検討すべきだと思います。例えば、ここの地域の子どもは、高草中、世紀小にも通えるという選択肢を保護者に持たせるべきだと思います。正式な校区の再編については、もっと将来的に通学させている方の意見も聞きながら考えていけばいいと思います。

委員

自治会の会長さんから話を聞きましたので、お話しします。まず、城北地区についてですが「何十年も前からある話だが、なかなか進まないの、鳥取市からある程度の案を示してもらった方がいい。」というのが現在の自治会長の考え方です。それから、千代水地区については、「千代水の方を集めて、その考え方を聞いてほしい」というのが千代水地区の会長の考え方です。南安長1丁目、2丁目の町内会に入っておられる方は、子どもが城北小学校に通っている家庭だけになっています。元は千代水地区の自治会だったのですが、皆、一度脱会されて、今度は学校に通われる家庭だけで町内会をつくられて、自治連の届けは「南城北」ということで城北地区の町内会となっています。ですので、場所によって、会長さんが変わられる度に交錯しておりますので、それぞれのところに意見を聞いていただかないと、全部一度に聞こうとしてもとてもまとまる話ではないなと思いました。

会長

一つの要因だけでなく、色々な事柄が重なっていますので、これらを解きほぐしていくには時間がかかるでしょうし、今まででもできなかったところだと思います。やはりある程度方針を出して、それについての意見を伺うということも同時にしていかないと、「皆さんどうしましょうか」というだけでは解決しないと思います。それぞれの学校が安全で適正規模になるような仕組みをここでは考えていく必要があります。ただ、強引にということはできませんので、色々な説明会と合わせて、地域でも考えていただきながらということになるかと思います。本日、結論が出るわけではございませんが、〇〇委員から地域のご意見などを伺いましたし、●●委員からは自治連の立場から説明していただきましたので、次回以降もこの協議を続けていき、何らかの方針を出していく必要があるだろうと思います。もう一つは、城北小学校の児童数が増えておりますので、それに対する対応も考えていかなければなりませんので、そのあたりも含めて検討を進めていきたいと思っています。

議事4「第13期校区審議会中間まとめについて」ですが、私たち13期で中間まとめを行いたいと思います。第12期以前も1年経過したあたりで審議内容をまとめて、課題を色々な方に周知していますが、この13期でもそれは必要だと思います。全市的な学校のあり方についての考え方や、学校ごとの具体的な課題を整理して、その解決方法を例示しながら、それを広く公表して各学校区で学校のあり方を考えていただくきっかけとしていただきたいと思います。7月頃の公表を目指していきたいと思っています。

これまで出された中間まとめを資料につけておりますので、事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料説明)

会長

このように、将来を見据えて様々な課題がございます。住民の方に実態をよく知ってもらおうということでまとめながら、この審議会だけでなく、住民と共に考えていくことで進めていきたいと思っております。

本日の議事は以上で終わりたいと思います。その他、皆さんから何かございますか。
それでは、あとの進行は事務局より、よろしく申し上げます。

事務局

慎重なご審議をいただきありがとうございました。次回の日程については、また調整をさせていただきますと考えております。以上をもちまして、第5回鳥取市校区審議会を閉会します。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 吉 澤 春 樹

署名委員 牛 尾 柳 一 郎